

26 回ふれあいトーク (高岡流おもてなし Part V ～食によるおもてなし～) 会議記録

- 1、日 時 平成 26 年 8 月 5 日（火） 午後 2 時から 3 時 30 分
- 2、場 所 高岡商工ビル 501 会議室
- 3、出席者 高岡食のブランド推進実行委員会 22 名
市長、観光交流課長、観光協会専務理事、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 出席者紹介
 - (3) 意見交換

.....

意見交換

参加者

- 日々の食卓に並ぶ食材を提供している。昆布スイーツとして昆布を使ったパンを提供しており、新幹線新駅周辺に店舗を構えていることもあり、高岡の情報発信に協力していきたい。

参加者

- 農業協同組合の直売所で、昆布を使ったおはぎや高岡産小麦で作ったタルトなどの昆布スイーツを販売している。

参加者

- 就労継続支援 B 型事業所として、知的障害の人の就労支援事業所で、昆布クッキーを製造している。昆布を切るところから、焼き上げるところまでを、手作りで作り、販売している。

参加者

- 昆布にも、輸入昆布や国産昆布などいろいろあるが、昔ながらの調味料に似せて作った風味調味料などではなく、昆布の本物の味や食文化を伝えていきたいと思っている。本当の文化は本物の素材を使って伝えていかなければならない。温故知新だけでなく、古いものをたずね求めて、新しいものを創り出す、温故創新を進めていきたい。

参加者

- 昆布パンを作っており、浸透してきていると感じている。昆布パンを通じて高岡の昆布の文化を少しでも広げられればと考えている。

参加者

- 昆布の原料販売をしている。産地に近い立場の会社だが、昆布スイーツの取組みでも商品を提供している。

参加者

- 昆布弁当、昆布スイーツ、昆布飯の取組みに参加している。店頭全店で高岡を宣伝できるよう取り組みたい。

参加者

- シティホテルの位置づけとして、県内外のお客様に向けて、ホテルなりに高岡の食文化によるおもてなしや昆布の食文化を表現していきたい。

参加者

- 高岡商工会議所とともに、県内外の人をもてなすため、また、高岡のPRのため昆布飯を売り出している。また、高岡グリーンラーメンの公認1号店としても高岡の活性化のため一役を買いたいと思っている。

参加者

- 全国から訪れる道の駅のお客様に昆布飯、昆布スイーツが喜ばれている。旅行会社を通じて、県外からの団体客に昆布飯、昆布スイーツを提供し、好評を得ている。全国にPRしていきたい。

参加者

- 市内外、国外のお客様に昆布飯を提供しており、好評を得ている。また、アンケートを行い、お客様の意見を献立に取り入れている。高岡を、昆布飯を通じて全国に発信していきたい。
- 現在、昆布飯を発信しているが、これを全国的な発信にしていきたい。新幹線新駅や観光地などにも、昆布飯や昆布スイーツを食べられる店を紹介するパネル等をおいてもらえれば、高岡での滞在時間が延びるのではないかなと思う。

市長

- ぜひ昆布飯や昆布スイーツがどこで食べられるか、パンフレットで紹介していきたい。盛り上げてきた昆布飯、昆布スイーツを、街歩きの際の楽しみの1つとしたいと考えている。特に、若い人たちには、ソーシャルネットワークサービスなどを使って昆布飯の味や場所などをどんどん発信してもらいたい。

観光協会専務理事

- 昆布飯、昆布スイーツのパンフレットは、出向宣伝の際にも持参したり、観光パンフレットの提供依頼があった際には配布している。新幹線新駅・高岡駅現駅の観光案内所での情報提供にも、心を砕いていきたい。

観光交流課長

- まちあるきマップ「まわるん」を作成し、ここで昆布飯や食べられる場所を紹介しており、このマップを今後どんどん活用しようと考えている。観光地でも昆布飯や昆布スイーツの情報を得たり、食べることができるよう工夫していきたいと考えている。

市長

- 雑誌やパンフレットなどの情報は便利だが、一方で、観光客が「昆布飯というものがあり、どこで食べられる」という具体的な情報にたどり着くまでの手間がかかる

という面もある。いろいろな店に昆布飯・昆布スイーツの情報が置いてあることはもちろん、観光スポット付近のコンビニエンスストアに昆布飯パンフレットをおいてもらうなど、工夫したい。またインターネットで「高岡」「食事」で検索をしたら、昆布飯、昆布スイーツの情報にたどり着くようにしていかなければならない。

参加者

- 高岡への来訪者は、タクシー、バス、電車を利用する機会が多い。新幹線が開業した後は、二次交通、三次交通の利用が重要視されるため、バス車内やタクシーの後部座席などにパンフレット等を配置すれば、観光客に情報を利用してもらえる。道の駅は車で離れた場所にあり、タクシーやバスで高岡の情報を案内できればよいと思う。
- 道の駅では、様々なパンフレット等を置いて情報発信している。県内外のほか、市内の方々も人も来るので、パンフレットを送ってもらえれば、情報の発信にどんどん協力したい。

市長

- パンフレット等を置く場所については、広く手にとってもらえるよう心掛けていきたい。タクシー、バスなどにも配置を働きかけたい。マップにアクセスコードを掲載する例もあり面白いと思う。市も協力していきたいので、情報を提供してほしい。

参加者

- 金屋町のように、人が営みを育んできた場所が、時間の経過とともに歴史ある街並みになることから、今ある街並みの魅力を磨き上げていくことが大切だと思う。その街並みの中で、山海の幸の昆布め、昆布のおにぎりなど、伝統的なものや高岡の人が通常食べている素朴なものを提供できる場所があればいいと思う。昆布は主役になることは少ない素材だが、昆布を上手に使ってきた文化を、高岡の街並みの中で知らせることができればいいと思う。

市長

- 金屋町では、飲食店やギャラリーなどの空き家の活用策がいくつか考えられている。そのほか、山町では、ギャラリーや飲食を扱う店等ができており、また、大仏周辺でも動きがあると聞いている。御旅屋、末広町にも空き家活用の動きが広がってほしいと考えており、市も支援していきたい。
- もう1つは、空き家や土地のマッチングを行っていきたいと考えており、店舗を持ちたい人がいるなどの情報があれば、情報提供のご協力をお願いしたい。
- 金屋に行けば高岡の食の文化が味わえるというように、高岡の街並みの中で高岡の味を楽しめるようになれば、高岡の魅力の1つになると思う。

参加者

- 昆布の取り組みは行政、民間団体、企業などが携わりスタートし、今に至っている。マーケティングを専門とするメンバーもいることから、「昆布のまち高岡」になるためのブランドコンセプトやターゲット、目標値、手法を明確化していった方が取り組む価値がある。各店舗の小さな自助努力もあるが、大がかりな取り組みは行政に

しかできない部分もある。新幹線が開通するにあたり、昆布のまちとして高岡を盛りあげ、さらに参加団体にとってプラスになるようなPRの場や商品提供の場として、コンセプトショップなどのPRできる機関店ができるとよいと思う。

市長

- これまでは、「昆布で何ができるか」を考えながら取組み、昆布飯、昆布スイーツ、昆布弁当と、昆布の活用の可能性を広げてきた。これらの活動を通して、昆布の面白さや活用法について、各メンバーがそれぞれの立場で感触を得てきたと思う。今後の方針として、一つはその可能性の広まりをどこまで追求できるかがある。もう一つは、昆布の活用について一定の展望が見えてきたところで、一度集約し、コンセプトやPR方法などを見直し、整理することが考えられる。一か所での、集中的な陳列や、各種の昆布メニューの提供、看板メニューの設定など、アピール方法について検討する時期にきており、新幹線開業に合わせ、市も一緒になって考えていきたい。

参加者

- 富山県が昆布の一大消費地であり、昆布購入額は富山県がずっと1位だったが、昨年京都に1位の座を奪われたことが悔しい。一概には言えないが、京都で消費される種類の昆布の価格が上がったことも理由の一つと考えている。例えば宇都宮餃子と浜松餃子の奪還例をリサーチするなどして、昆布購入額1位を奪還するとPRすれば、面白い取組みになると思う。

市長

- 家計調査など食に関する購入額のデータは県庁所在地に限られているなど、データ量として必ずしも十分でないが、首位奪還を打ち出すのは、わかりやすく面白い。
- ユネスコの世界文化遺産に和食が評価されたことについては、出汁を使うことなど、昆布の占める割合が大きいと思う。日常的に家計の消費で昆布が使われているのが面白い。1位奪還に向けての取組みは面白いと思うので、良いアイデアがあったら教えてもらいたい。

参加者

- 昆布には北前船で運ばれてきたという歴史があり、他社との差別化を図るために、昆布を使ったパンを作ろうと考えた。米粉、小麦の「ゆきちから」、昆布を使用し、昆布パンを作っている。昆布パンをベースにサンドイッチを作るなど、次の展開を考えている。また、昆布パンを有楽町のアンテナショップいきいき富山館に送っているが、反響があるため、その他の昆布飯などもアピールしていければ、首都圏の人にアピールする機会になりよいと思う。
- 大仏前の朝市等の機会に、商業高校等の学生が考えた昆布メニューのコンクールを行うなど、若い世代に昆布が浸透するような取組みを行っていけば、将来的な底力になっていくと思う。
- 学校給食で昆布パンを提供した。

市長

- 昆布パンは学校給食で子供たちに喜ばれるのではないかと思います。地産池消の取り組みにも力を入れており、子供たちにどういうメニューが好まれているか等の情報を教えてもらえれば、農協などと相談しながらすすめていきたい。
- 高校生の作るメニューは、いつも大変面白い。生徒が作ったメニューを学校とも相談して、朝市やクルン高岡の地下街などで提供できないか、考えてみたい。
- 昆布パンから、サンドイッチに展開していくアイディアはとても面白い。「昆布」という素材を通じて、様々な取り組みが展開していくことはとてもよく、展開の広がりがある昆布は戦略的な素材だったと思う。昆布から広がる様々な取り組みが集積して、高岡ブランドを作っていくことになると思うので、ぜひ取り組んでほしい。
- アンテナショップいきいき富山館にある富山県産の商品のうち、高岡の商品が実際のシェアに比べて少ないように感じる。市としてもできるだけPRしていくので、ぜひ皆さんも、アンテナショップに商品を出してみしてほしい。

参加者

- フランス料理に昆布だしを使うと聞いたことがあり、昆布は今、注目されていると感じている。昆布は周りの食材を引き立てる力があり、料理全体の連帯を生む。最近は醤油やみりんなどの風味調味料が使われることが多いが、昆布など昔から伝わる本物の材料で作った本物の味を提供し、高岡で食べてみたいという人たちが増えるよう、昆布を利用したスイーツや食事などを提供していきたい。また、昆布など、本物の素材を使った食事は、健康にもよいことから、子供たちが喜んで食べるようになっていけばいいと思う。

市長

- 本物志向は大切であり、観光に来る人は本物を求めてその土地に来ている。和食の原点である昆布を使い、高岡でどのように提供するかを工夫していくことがこれからの取り組むべきことのひとつだと思う。

参加者

- 就業継続支援B型事業の事業所で昆布クッキーを1つ1つ手作りして、1袋100円で売っている。お客様から塩味がしておいしかったと言ってもらえ嬉しく感じている。高岡にある事業所として、昆布をPRするとともに、利用者の仕事と賃金につながっていけばいいと思う。

参加者

- 高岡で1つのお店に行けば、昆布商品が買えたり、昆布メニューが食べられたりできるところがあればよい。また、昆布飯を提供する店で、他店の昆布スイーツも販売するなど、2～3店が協力してし、互いにPRしあう場所ができればいいと思う。

参加者

- 金屋町や山町筋といったコンパクトにまとまった街並みの中でいくつものお店があり、昆布飯や昆布スイーツといった特徴ある高岡の食を提供できれば、観光客がそれを目当てに訪れるのではないかな。

- イオンモール高岡は、新幹線新駅に合わせて外装を直したと聞いている。各店舗も新幹線開業に向け、店の環境を整えたり、新幹線利用客を意識した品ぞろえをするなど、各店舗も盛り上げに努めていけばよいと思う。

市長

- 就労支援事業所の手作りクッキーは、いつも利用しており、次第に浸透してきていると感じている。
- 各店ごと、情報交換しながら昆布メニューをPRしていくのは大切だと思う。メニューのとり合わせ等の情報を店舗同士で共有し、協力して昆布飯と昆布スイーツを提供し合うなど、取り組んでもらうのも良い。
- まちづくりと食を組み合わせしていくことは大切である。その地元ならではの雰囲気の中で、地元ならではの食事をするのは楽しい。
- 観光客をもてなすためには、特別に豪華である必要はなく、日常を見せればよいが、小綺麗であることが大切であると思う。手入れが行き届いていることが好印象につながるため、それぞれの業界の方には目配りなどお願いしたい。これまで開発されてきた昆布飯などのメニューが、気遣いの行き届いたものであることが嬉しい。食の提供の仕方も含めて研鑽を深めていってほしい。

参加者

- 歴史的町並みの中で、昆布飯や昆布スイーツを食べられる場所があればよいと思う。

市長

- 新高岡駅や、その周辺で、高岡の思い出になる品を購入し、持って帰れる場所があればいいと思うので、皆さんと相談していきたい。道の駅は旅行者が好む雰囲気づくりを意識しておられるので、今後もお願いしていきたい。クルン高岡も旅行者が好む店の雰囲気が出ているのではないかとと思うが、食の部分など今後も旅行者に好まれる雰囲気づくりに努めていきたい。
- 富山にはおいしい食材がたくさんあるにも関わらず、「越中料理」というようなものはあまり聞かない。これは、個々の食材の質が良いので、「〇〇料理」というように特別な調理をしなくても味がよく、喜ばれる点があるのではないかと。しかし、人に来てもらうためにはもう一步の努力が必要で、その戦略的なテーマが高岡にとっては「昆布」だったと思う。皆さんのおかげで、昆布の取り組みは良い効果を得ており、新幹線開業までにさらに磨き上げていく必要があると思う。
- 食べたり、見たりできる場を作ったり、歩いて巡ることができるルートマップの整備などが課題だと感じた。市も取り組んでいくので、皆さま方にもそれぞれの店舗でご協力をお願いしたい。

以上